

清水 美孝 議員

(一問一答方式)



- ①12月補正予算等
- ②学校施設の管理
- ③愛媛県県立学校振興計画

12月補正予算等について (公債費)

問 公債費が前年度比23.4%増となっているが要因はなにか。また、来年度以降も増えていくのか。

答 令和3年度と比較して増額となる要因は、平成30年7月豪雨に伴う災害復旧事業の財源として令和元年度に活用した起債の償還が令和4年度から本格的に始まったことに加え、前年度と比べて借換債が4億7,920万円増加したことです。

なお、今年度予算に計上している地方債の元利償還金は、前年度までに借入れたものについて、償還表に基づき算出しているため、令和4年度予算における公債費が今後増加するものではありません。

予算総額に占める公債費の割合は、大規模な公共事業や国における給付金事業などの実施に伴い、分母となる予算総額で変動をしますが、令和5年度の公債費としての支出額は増加要因の一つとなっている借換債の金額が減額となりますので、総額も減額する見込みです。

一方、全国共通の財政指標である実質公債費比率は、令和3年度決算時で7.1%となりましたが、今後は学校施設耐震化事業などの大規模事業に伴い市債発行の影響によって上昇に転じる見込みとなっているため、引き続き健全な財政状況を維持できるよう、市債発行額の平準化、抑制を図り、計画的な財政運営を図っていきます。

12月補正予算等について (積立金)

問 積立金に10億円の予算を計上しているが、今の時期にこれだけの積立てを行う理由は。

答 財政調整基金に5億円、公共施設等整備基金に5億円を積み立てる予算を計上していますが、財政調整基金は、平成30年7月豪雨災害における災害復旧経費の一部として取崩しを行っており、今後の経

済事情の変動等による財源不足への対応や大規模災害等不測の事態に備えるため、発災前の水準に戻すものです。

また、公共施設等整備基金は、令和10年度の完成を目指して取り組んでいる市民文化会館建設事業に必要な整備資金の一部を確保するために積立てるもので、これら積立てに要する財源は令和3年度決算に伴う繰越金を充当します。

令和3年度決算においては、令和2年度に比べ、コロナ禍における経済活動が回復したことで国税収入の増加に伴う普通交付税の追加交付があったほか、当初見込みよりも市税、法人事業税交付金や地方消費税交付金など歳入の増加により、繰越金が増額となりました。

この繰越金は、今年度の当初予算及び補正予算における一般財源として充当してきましたが、12月に入り今年度における補正見込みについても一定の目途がついたことから、将来の財政運営の健全性の確保を図るために必要と考えて積立てを行うものです。

学校施設の管理について

問 中学校管理経費に402万円の補正額が計上されているが、その見込み額の精査はどうなっているか。また、河辺中学校の旧校舎の維持管理はどうなっているのか。

答 今回の補正予算では、国際的な燃料価格の高騰が続く中、市内小・中学校の電気料金の上昇に伴う光熱水費の追加分を計上しています。

見込み額の精査については、今後も上昇が見込まれるため、当市で試算した燃料調整費単価の上昇見込みに学校の電力使用量を乗じて追加分を算出したものです。

河辺中学校の旧校舎は、河辺小学校の施設を使用した小中一貫教育を実施した平成31年度からは使用していません。令和3年度の河辺中学校の旧校舎や屋内運動場などの維持管理経費は約175万円を支出しており、光熱水費、し尿浄化槽保守点検業務、敷地除草等管理業務などが主なものです。

河辺中学校の旧校舎は昭和49年建設の旧耐震基準の建物であるため、使用していないプールと併せて令和6年度に解体する計画で準備を進めています。